

1 子育て分野の課題

- ①合計特殊出生率が依然として全国平均を下回っていることから、子供を産み育てやすい環境の整備が必要。
- ②子育てに不安や負担を感じる人の割合は4割を超えており、子育て支援サービスの充実が必要。
- ③女性の年齢階層別労働力率は上昇傾向にあり、仕事と子育て・家庭生活が両立できる環境づくりが必要。
- ④待機児童数は増加傾向にあり更なる対策が必要。
- ⑤要保護児童数は増加傾向にあり、虐待などの未然防止や早期発見・早期対応に向けた支援体制の充実が必要。
- ⑥こども療育室における相談件数は増加傾向にあり、療育ニーズへの対応が必要。
- ⑦ひとり親家庭は所得や就業等に困難を抱えるケースが多いことから一層の支援が必要。
- ⑧就学前施設の数が増加傾向にあり、入園している施設の種別に関わらず、小学校教育への円滑な接続が行われるよう、保育所や幼稚園等と小学校との更なる連携の強化が必要。

2 課題解決に向けた施策の方向性

- ①妊娠・出産・子育ての切れ目のない支援
- ②仕事と子育てが両立できる環境の整備
- ③配慮を要する子供や家庭への支援
- ④就学前教育の推進

3 審議会での主な意見

- ①今後は量だけでなく、保育の質をいかに確保していくかが重要。
- ②台東区は待機児童が多いので、働きやすい環境を整備してほしい。
- ③20年後に待機児童をゼロにできるような基本構想にしてほしい。
- ④児童虐待等への対応について、今後、区がどのようにイニシアチブを取っていくのかという視点も重要。
- ⑤子育ては多世代との連携がとても重要。
- ⑥子育てに悩んでいる親を専門家ではなく、地域で支える仕組みの構築が必要。
- ⑦地域で子供を育てていくことが重要だということをアピールしていく必要がある。
- ⑧子育てすることに喜びと自信を持てるよう、区全体でバックアップすることが必要。

4 子育て分野の20年後の望ましい姿

地域が一体となって親子の成長を支えるとともに、多様なニーズに対応した質の高い子育て支援により、誰もが安心して子供を産み育てられる環境が整っています。また、全ての子供が、将来に夢と希望を抱き、心も体も健やかに育つことができる環境が整っています。そして、子供達が笑顔にあふれ、のびのびと育ち、全ての区民はその成長を温かく見守っています。

5 基本目標1

子供は輝かしい未来への希望であり、子供達の健やかな成長は、人々の切なる願いです。台東区には、支え合いや助け合いという、古くから培ってきた地域の力があり、これまでも家庭や地域が一体となって子供の成長を支えてきました。台東区はこうした力を活かして、子供達が笑顔にあふれ、のびのびと育ち、地域全体でその成長を温かく見守るまちを実現します。

また、世界に飛躍し未来を創造する子供を育てるため、まち全体を人が成長するための環境として捉え、豊かな文化や歴史、伝統などを活かした教育を推進しています。台東区は、こうしたかけがえのない財産を活かし、学校、家庭、地域の信頼と支え合いの中で、未来を担う子供達が、多様化・国際化する変化の激しい社会に対応し、創造性豊かに、たくましく生きる力を身につけられる教育を推進します。

さらに、台東区には、数多くの文化施設や学術・教育機関などが集積し、人が生涯にわたって学ぶための環境が整っています。また、互いに学び、支え合い、高め合える地域社会を築くための土壌があります。台東区はこれらを最大限に活用して、学んだ成果を社会に活かし、生涯にわたって誰もが生きがいのある心豊かな生活を享受できるまちを実現します。

子供からお年寄りまで、人は、いくつになっても、豊かな人間性を養い、心身ともに健やかに成長することができます。台東区は、家庭や学校、地域と一体となって、区民が成長していくための多様な機会を創出していきます。そして「あらゆる世代が生涯にわたって成長し輝くまち」を実現します。

6 施策の方向性（第7回審議会時点）

地域が一体となって親子の成長を支え、多様なニーズに対応した質の高い子育て支援により、誰もが安心して子供を産み育てられる環境を整えます。また、全ての子供が心も体も健やかに育つことができる環境を整えます。

7 施策の方向性案

教育分野

1 教育分野の課題

- ①児童・生徒の基礎的な知識など確かな学力を身につけるとともに、知識の理解の質を高め資質・能力を育むための、教員による「主体的・対話的で深い学び」の視点に立った授業改善が必要。
- ②児童・生徒の更なる体力向上に取り組んでいく必要がある。
- ③豊かな人間性や社会性を育む道徳教育の充実が必要。
- ④豊かな国際感覚を身に付けた児童・生徒の育成が必要。
- ⑤特別な支援が必要な児童・生徒に適切な学習機会と教育を提供するため、一層の環境整備が必要。
- ⑥年少人口の増加とその後の減少を見据え、適切な学級編制、特別教室等の転用や施設改修などの教育環境の整備が必要。
- ⑦ICT教育機器を活用することで、教員による質の高い授業の実施や、児童・生徒の学力・情報活用能力を高めていく必要がある。
- ⑧不登校やひきこもりなど、子供や若者が直面する課題が多様化・複雑化していることから、相談体制の充実とともに、家庭、地域、関係機関の連携・協力体制の整備が求められている。
- ⑨子供達の健全な育成のため、全ての児童・生徒にとって安全・安心な放課後の居場所づくりの推進が必要。

2 課題解決に向けた施策の方向性

- ①未来を担う子供たちを育む学校教育の充実
- ②子供の状況に応じた支援の充実
- ③質の高い教育環境の整備
- ④子供・若者の健全育成の推進

3 審議会での主な意見

- ①台東区の持つ文化資源を教育にどのように活かすのかが重要。
- ②子供達を日本の未来を担う人材にしていく教育が大切。
- ③グローバルな社会を主体的に生き抜ける力を身に付けられる教育であってほしい。
- ④情報リテラシーを含むICTに対応した教育が必要。
- ⑤できないことを一定レベルに引き上げる教育や、子供の長所をできる限り伸ばす教育が必要。
- ⑥教員の育成が重要。
- ⑦学校のクラスに外国人がいるのが当たり前になっているのが台東区の特徴。
- ⑧性同一性障害の方々を受け入れられる体制づくりが課題。
- ⑨学校での教育だけでなく、家庭教育の視点や地域との連携が重要。
- ⑩地域において、子供だけでなく若者や障害者など全ての人の居場所をつくる必要があるとなっている。

4 教育分野の20年後の望ましい姿

学校・家庭・地域の連携により、教育力の向上が図られているとともに、台東区の多彩な地域資源を活用した特色ある教育が推進されています。そして、未来を担う子供達が、多様化・国際化する、変化の激しい社会に対応し、創造性豊かに、たくましく生きる力を身に付けています。

5 基本目標1

子供は輝かしい未来への希望であり、子供達の健やかな成長は、人々の切なる願いです。台東区には、支え合いや助け合いという、古くから培ってきた地域の力があり、これまでも家庭や地域が一体となって子供の成長を支えてきました。台東区はこうした力を活かして、子供達が笑顔にあふれ、のびのびと育ち、地域全体でその成長を温かく見守るまちを実現します。

また、世界に飛躍し未来を創造する子供を育むため、まち全体を人が成長するための環境として捉え、豊かな文化や歴史、伝統などを活かした教育を推進しています。台東区は、こうしたかけがえのない財産を活かし、学校、家庭、地域の信頼と支え合いの中で、未来を担う子供達が、多様化・国際化する変化の激しい社会に対応し、創造性豊かに、たくましく生きる力を身につけられる教育を推進します。

さらに、台東区には、数多くの文化施設や学術・教育機関などが集積し、人が生涯にわたって学ぶための環境が整っています。また、互いに学び、支え合い、高め合える地域社会を築くための土壌があります。台東区はこれらを最大限に活用して、学んだ成果を社会に活かし、生涯にわたって誰もが生きがいのある心豊かな生活を享受できるまちを実現します。

子供からお年寄りまで、人は、いくつになっても、豊かな人間性を養い、心身ともに健やかに成長することができます。台東区は、家庭や学校、地域と一体となって、区民が成長していくための多様な機会を創出していきます。そして「あらゆる世代が生涯にわたって成長し輝くまち」を実現します。

6 施策の方向性（第7回審議会時点）

学校・家庭・地域の連携により、教育力の向上を図ります。また、台東区の多彩な地域資源を活用した特色ある教育を推進します。

7 施策の方向性案

資料3-2 「施策の方向性案」 3ページ該当

生涯学習分野

1 生涯学習分野の課題

- ①区民の生涯学習のニーズが多様化していることから、学習の内容や規模等において拡充が必要。
- ②区民が自主的に学習に取り組む意欲を支え、その学習を継続でき、学んだことを活用できる仕組みづくりが必要。
- ③誰もがスポーツに親しむため、区民それぞれの状況に応じたスポーツに触れる機会の提供が必要。
- ④区民がより身近にスポーツを楽しめるよう、スポーツ環境の整備が必要。
- ⑤障害の有無にかかわらず相互に理解し支えあい、誰もが輝く社会を実現するため、障害者スポーツの推進が必要。
- ⑥子供たちがより良い人生を送るちからを付けられるよう、成長過程に合わせた適切な読書環境の提供が必要。
- ⑦生涯学習を支える図書館として、ニーズに即した資料収集や利用しやすい環境整備等、サービスの充実が必要。

2 課題解決に向けた施策の方向性

- ①多様な学習機会の提供
- ②学習の促進及び成果を活用に繋げる環境の整備
- ③全ての世代へのスポーツ活動機会の提供
- ④スポーツのできる環境の整備
- ⑤障害者スポーツの推進
- ⑥図書館機能の充実

3 審議会での主な意見

- ①ICTに対応した生涯学習が必要。
- ②ICTの進展により、自宅にいながらいつでも学習できるような仕組みが全国で始まっている。
- ③本に親しめず不読率が上がっているため、読書の機会を増やす必要がある。
- ④区民同士がお互いに学び合うような仕組みが何かできないか。
- ⑤生涯学習で学んだことを活かす仕組みを構築する必要がある。
- ⑥生涯学習を通じて子供が「台東区で生まれ育って良かった」と思えるようにする必要がある。
- ⑦インターネット環境がいかに発達しようが、図書館は居場所づくりとしての機能を果たすのではないか。
- ⑧体を動かして楽しく遊べるように、体育館のようないつでも使える場所が欲しい。

4 生涯学習分野の20年後の望ましい姿

いつでも、どこでも、誰でも、様々な学びやスポーツに取り組める環境が整っています。
また、学びやスポーツを通じて人と人とのつながりが生まれ、相互に高め合う仕組みが構築されています。
そして、学んだ成果を社会に活かし、生涯にわたって、誰もが生きがいのある心豊かな生活を享受しています。

5 基本目標1

子供は輝かしい未来への希望であり、子供達の健やかな成長は、人々の切なる願いです。台東区には、支え合いや助け合いという、古くから培ってきた地域の力が、これまでも家庭や地域が一体となって子供の成長を支えてきました。台東区はこうした力を活かして、子供達が笑顔にあふれ、のびのびと育ち、地域全体でその成長を温かく見守るまちを実現します。

また、世界に飛躍し未来を創造する子供を育むため、まち全体を人が成長するための環境として捉え、豊かな文化や歴史、伝統などを活かした教育を推進しています。台東区は、こうしたかけがえのない財産を活かし、学校、家庭、地域の信頼と支え合いの中で、未来を担う子供達が、多様化・国際化する変化の激しい社会に対応し、創造性豊かに、たくましく生きる力を身につけられる教育を推進します。

さらに、台東区には、数多くの文化施設や学術・教育機関などが集積し、人が生涯にわたって学ぶための環境が整っています。また、互いに学び、支え合い、高め合える地域社会を築くための土壌があります。台東区はこれらを最大限に活用して、学んだ成果を社会に活かし、生涯にわたって誰もが生きがいのある心豊かな生活を享受できるまちを実現します。

子供からお年寄りまで、人は、いくつになっても、豊かな人間性を養い、心身ともに健やかに成長することができます。台東区は、家庭や学校、地域と一体となって、区民が成長していくための多様な機会を創出していきます。そして「あらゆる世代が生涯にわたって成長し輝くまち」を実現します。

6 施策の方向性（第7回審議会時点）

いつでも、どこでも、誰でも、様々な学びやスポーツに取り組める環境を整えます。また、学びやスポーツを通じて、人と人とのつながりを生み、相互に高め合う仕組みを構築します。

7 施策の方向性案

資料3-2 「施策の方向性案」 4ページ該当

健康分野

1 健康分野の課題

- ①生活習慣病の予防と早期発見、早期治療にむけて総合健康診査受診率を向上させる必要がある。
- ②がんの早期発見・早期治療に向けた、検診方法の検討、精度管理、受診率向上を図る必要がある。
- ③受動喫煙防止対策を促進する必要がある。
- ④区内自殺死亡率は、都全体の自殺死亡率16.6と比較すると高く、更なる対応が必要。
- ⑤健康推進委員による活動の参加者は高齢者が多く、地域の健康づくりのために多世代の参加が必要。
- ⑥かかりつけ医を決めている区民の割合を増やし、在宅療養支援体制の充実を図る必要がある。
- ⑦環境衛生、食品衛生、医務薬事衛生等については、引き続き対応していく必要がある。
- ⑧結核罹患率は国の14.4、都の17.1と比較すると高い数値となっており、引き続き対応が必要。
- ⑨新型インフルエンザ等の感染症が流行した際、迅速・的確に対応できる健康危機管理体制の推進が必要。

2 課題解決に向けた施策の方向性

- ①ライフステージにおける生活習慣病等の予防対策と支援の充実
- ②がん予防と早期発見
- ③こころの健康づくりの推進
- ④地域の健康づくりの推進
- ⑤地域医療体制の充実
- ⑥生活衛生における安全と安心の確保
- ⑦感染症等の健康危機管理体制の推進

3 審議会での主な意見

- ①高齢になっても、地域で楽しみを持てる場や活躍する場があると人生を楽しめるので、その機会提供が大切。
- ②小児生活習慣予防もしているが、成人の予防に結びつかないので、全世代に繋がる健康施策が必要。
- ③受動喫煙の問題も含めなるべく早く解決して欲しい。
- ④区の自殺率が高いことはあまり知られていないものの、対策が必要。
- ⑤病床数、医師の数（特に小児科や産婦人科、園医）が足りていないことが課題ではないか。
- ⑥自宅で最期を迎えたい人がさらに増える可能性が高いので、在宅医療をどうするかが大切。

4 健康分野の20年後の望ましい姿

区民が、生活の質の向上と健康寿命の延伸をめざして、地域で互いに支え合いながら、心と体の健康づくりに取り組んでいます。また、区民の多様なニーズに応じた、質の高い地域医療体制の整備や、健康危機への対策が更に充実し、区民の健康を支え、守るための環境が整っています。そして、全ての区民が安心して、健やかに暮らしています。

5 基本目標2

台東区は、地域組織力の強さを背景に、地域における自主的な健康づくりと支え合いを推進しています。健康であることは、いきいきとした豊かな生活を送る礎であり、人々の願いでもあります。台東区は、区民や地域と一体となって、生活の質の向上と健康寿命の延伸を目指し、誰もが安心して、健やかに過ごせるまちを実現します。

また、台東区には、困ったことがあれば皆で助け合う地域性が古くからあります。地域で互いに支え合い、つながりを大切にするには、誰もが住み慣れた地域でいきいきと安心して暮らし続けていくために必要不可欠なことです。台東区は、地域と連携して、区民一人ひとりの尊厳を守るとともに、誰もが社会の大切な一員として生きがいを持って活躍し、自分らしい生活を営める環境を創出していきます。

医療や福祉などの社会保障は、生活の豊かさの基礎をなすものです。また、「健康で長生きをしたい」という思いは、すべての人々が持つ願いです。台東区は、医療や介護が必要となった場合でも、区民が安心して生活を送ることができるよう、保健、医療、福祉サービスを相互に連携させて、ニーズに応じた適切なサービスを提供していきます。そして、「いつまでも健やかに自分らしく暮らせるまち」を実現します。

6 施策の方向性（第7回審議会時点）

生活の質の向上と健康寿命の延伸を目指して、区民による心と体の健康づくりを支援します。

また、質の高い地域医療体制を整備するとともに、健康危機への対策を更に充実させることで、区民の健康を支え、守るための環境を整えます。

7 施策の方向性案

資料3-2 「施策の方向性案」 5ページ・6ページ該当

福祉分野

1 福祉分野の課題

- ①地域包括ケアシステムをさらに推進する必要がある
- ②高齢者が要介護・要支援状態にならないための早いうちからの介護予防への取り組みが必要
- ③高齢者の地域とのつながりを促進し、地域の力の活用や、多様な主体による生活支援サービスの充実が必要
- ④障害者に対する地域生活支援体制を整備するとともに、在宅サービスの充実が必要
- ⑤障害者の高齢化が進んでおり、障害特性に応じた支援の充実とともに、高齢福祉施策との連携が必要
- ⑥障害者が一般就労・福祉的就労を継続することができるよう、支援体制の強化が必要
- ⑦高齢者・障害者の尊厳が保持され、地域で安心して生活できるよう、成年後見制度の利用促進が必要
- ⑧生活保護受給者・生活困窮者等の自立に向けて、就労支援や社会参加促進などの支援体制強化が必要

2 課題解決に向けた施策の方向性

- ①地域包括ケアに向けた体制の強化
- ②介護予防の推進
- ③地域の支え合いの仕組みづくりと生活支援の充実
- ④障害者の地域生活支援の充実
- ⑤障害者の就労支援の充実
- ⑥権利擁護の推進
- ⑦生活保護受給者・生活困窮者等の自立に向けた支援の充実

3 審議会での主な意見

- ①福祉で重要なのは地域包括ケアシステムで、本人とその家族の心構えが大事。
- ②医療と障害、高齢福祉の連携が今後は大切になってくる。
- ③障害者も心、知的、身体の障害がミックスした状態が増えてくるので、それに対応できる仕組みの構築が必要。
- ④誰もが社会の大切な一員として、生きがいを持って活躍し、自分らしい生活を営んで欲しい。
- ⑤これからはケアマネ等人員の教育が必要。
- ⑥高齢者の住まいの問題についての対策が必要。
- ⑦レスパイトケア（介護者の休息）対策が遅れている。
- ⑧地域で高齢者等を支える「お節介」の力は強いので、そこを自覚する必要がある。
- ⑨障害者の高齢化にも対応していく必要がある

4 福祉分野の20年後の望ましい姿

区民相互の助け合いや多様な主体による連携等、地域全体で、区民の自立した生活と社会参加を支える包括的な支援・サービスの提供により、誰もが住み慣れた地域で、いきいきと安心して暮らし続けることができる環境が整っています。
そして、区民一人ひとりの尊厳が守られ、誰もが社会の大切な一員として生きがいを持って活躍し、自分らしい生活を営んでいます。

5 基本目標2

台東区は、地域組織力の強さを背景に、地域における自主的な健康づくりと支え合いを推進しています。健康であることは、いきいきとした豊かな生活を送る礎であり、人々の願いでもあります。台東区は、区民や地域と一体となって、生活の質の向上と健康寿命の延伸を目指し、誰もが安心して、健やかに過ごせるまちを実現します。

また、台東区には、困ったことがあれば皆で助け合う地域性が古くからあります。地域で互いに支え合い、つながりを大切にすることは、誰もが住み慣れた地域でいきいきと安心して暮らし続けていくために必要不可欠なことです。台東区は、地域と連携して、区民一人ひとりの尊厳を守るとともに、誰もが社会の大切な一員として生きがいを持って活躍し、自分らしい生活を営める環境を創出していきます。

医療や福祉などの社会保障は、生活の豊かさの基礎をなすものです。また、「健康で長生きをしたい」という思いは、すべての人々が持つ願いです。台東区は、医療や介護が必要となった場合でも、区民が安心して生活を送ることができるよう、保健、医療、福祉サービスを相互に連携させて、ニーズに応じた適切なサービスを提供していきます。そして、「いつまでも健やかに自分らしく暮らせるまち」を実現します。

6 施策の方向性（第7回審議会時点）

区民相互の助け合いや多様な主体による連携等、地域全体で、区民の自立した生活と社会参加を支える包括的な支援・サービスの提供にり、誰もが住み慣れた地域で、いきいきと安心して暮らし続けることができる環境を整えます。

7 施策の方向性案

資料3-2 「施策の方向性案」 6ページ・7ページ該当

文化分野

1 文化分野の課題

- ①区民の関心を喚起し、本区の多彩な文化資源を有効に活用・発展させ、未来に引き継いでいく責任がある。
- ②魅力的な文化資源が多く集積し、文化を守り育み発展させている本区の魅力を、国内外に効果的に発信し、東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会以降も、発展的に続けていく必要がある。
- ③あらゆる人々が、年齢・性別・障害の有無、言葉の違いに関わりなく、気軽に文化芸術に親しむ機会を充実させるとともに、誰もが主体的に文化芸術活動に参加できるような環境づくりが求められている。
- ④区の芸術家等への支援・育成に向けた取り組みの認知度向上のほか、様々な分野の若手芸術家等へのさらなる支援が必要である。

2 課題解決に向けた施策の方向性

- ①文化資源の保存・継承・活用
- ②文化の魅力の発信強化
- ③あらゆる人々が文化芸術活動に参加できる環境づくり
- ④文化芸術を創造する人材の支援・育成

3 審議会での主な意見

- ①日本文化の良き理解者を増やしていくことが重要。
- ②区民の文化権の保障というのが一番筆頭に来る課題。
- ③区民の方々が日常的に文化に触れることができ、親しみを持てるような環境づくりが重要。
- ④子供のうちから芸術や文化を身近に感じて楽しめる心を持てるような政策が課題。
- ⑤区の伝統的な芸能や、区民のための、国立西洋美術館や東京都美術館をはじめとする施設が揃っている。そうしたものを活用するなど、台東区にしかできない文化施策を考えるべき。
- ⑥文化の高まりを一過性のものでなく、2020年以降も続け、産業施策とも関連させていく必要がある。
- ⑦産業・観光・文化の連携は必要。
- ⑧日本文化・伝統に対する外国人の憧れは強い。着物や帯、草履など台東区には多くある。文化を大事にすることは、産業を大事にすることに繋がるので、文化と産業を一緒に考えて欲しい。

4 文化分野の20年後の望ましい姿

江戸の昔から、先人たちが築いた多彩で粋な文化が、将来にわたって継承されるとともに、多種多様な文化との融合により、新たな文化が創出されています。また、誰もが文化に親しめる環境が創出されるとともに、全ての区民が様々な文化を理解し受け入れ、心豊かな生活を送っています。そして、文化の力が様々な分野に活かされて、都市の魅力と活力が向上しています。

5 基本目標3

台東区は、名所や旧跡の数々を擁し、まちや日々の暮らしの中に、江戸の粋と人情、歴史と文化が息づいています。幾多の先人たちによって、今日まで築き上げられた、多彩で粋な文化は、区民の誇りであり、このまちを成長・発展させてきた力の源です。台東区は、文化の力を最大限に活かして、人々の心豊かな生活を実現し、まちの魅力と活力を向上させます。

また、古くから商工業の中心地の一つとして栄え発展してきた台東区に、今なお集積する多種多様な産業は、このまちの個性と魅力です。産業の振興は、まちに活力を生み出すとともに、区民生活の向上につながります。台東区は、企業の持続的な成長と、多種多様な産業の集積を一層向上させて区内産業の更なる振興を図ります。

さらに、豊富な地域資源、四季折々の行事などの多彩な魅力により、台東区には世界中から多くの人々が訪れています。観光は、地域の賑わいの創出や、地域経済の活性化に大きな役割を果たします。台東区は、世界に冠たる観光都市として、世界中の人々を惹きつけるとともに、区民との相互理解を促進させて、誰もが満足し、持続的に発展し続ける質の高い観光地を形成します。そして、観光の力を活かし、区民生活の更なる向上を図ります。

世界中から多様な人々が訪れる台東区では、長い歴史と伝統に裏打ちされた文化や産業が、新たな感性と出会うことで、新しい魅力が生まれ、まちの輝きが増しています。そして、その輝きがまちの繁栄を確固たるものとします。台東区は、文化と産業、そして観光の力を連動させて、その力を最大限に高め、輝かしい未来への創造につなげていくことで、「活力にあふれ多彩な魅力が輝くまち」を実現します。

6 施策の方向性（第7回審議会時点）

先人達が築いた多彩で粋な文化を将来にわたって継承するとともに、多種多様な文化との融合により、新たな文化を創出していきます。また、誰もが文化に親しめる環境の創出や、区民が様々な文化を理解し受け入れられるよう取り組んでいきます。さらに、文化の力を様々な分野に活かしていきます。

7 施策の方向性案

資料3-2 「施策の方向性案」 8ページ該当

産業分野

1 産業分野の課題

- ①近年、区内事業所の減少が続いていることから、皮革産業や伝統工芸など既存産業の再活性化を図るとともに、新たな活力をもたらす企業の区内誘致や、業種を超えた交流・連携、創業・起業の促進など、区内産業の活力、競争力を高めていく必要がある。
- ②経営者の高齢化が進んでいるため、事業承継に対する効果的な支援が求められている。
- ③新たな販路開拓を必要としている事業所が多いものの、海外展開をしている事業者が少ない。
- ④ICTやビッグデータを利用したマーケティング戦略などの重要度が増しており、区内事業者への支援が求められている。
- ⑤広域・観光型商店街は、来街者の増加・多様化への対応が求められる一方で、地域コミュニティの核となる近隣型商店街においては、売上の減少や空き店舗の増加など、活力の低下が見受けられることから、存続・発展に向けた支援が必要である。
- ⑥人材不足や産業構造の変化に対応するため、若者・女性・高齢者などの多彩な人材の活用を進めていく必要がある。

2 課題解決に向けた施策の方向性

- ①地場産業など多様な地域産業の活性化
- ②創業、起業の促進
- ③成長、成熟期への支援
- ④事業承継の円滑化
- ⑤国内外への台東区ブランドの魅力発信
- ⑥情報通信技術の活用促進
- ⑦魅力ある商店街づくり
- ⑧誰もが働きやすい職場環境づくり

3 審議会での主な意見

- ①地場産業を支える若い力をどのように育て、伸ばしていくかということが大切。
- ②20年後は産業構造や働き方も変化しているので、臨機応変に時代に対応できる力を教育していく必要がある。
- ③ネット通販のようなICTの活用による影響に、既存の小売店がどのように立ち向かっていくかという視点も必要になってくる。
- ④区内事業所の従業員に高齢者が多いことが課題。創業・起業支援だけでなく事業所誘致が必要ではないか。
- ⑤台東区の地の利を活かして、新たな産業を呼び込み、育てていくといった施策が必要。
- ⑥商業と観光が連携した施策も必要ではないか。
- ⑦産業・観光・文化の連携は必要。
- ⑧産業の集積も台東区の個性として活かしていきたい。
- ⑨クリエイティブなもの生まれるには多様性が必要だと言われている。台東区には多様性があるのでクリエイティブ性を発揮する創造的産業の拠点となるよう取り組み、将来につながる。

4 産業分野の20年後の望ましい姿

次代の産業を担う人材の育成や円滑な事業承継、誰もが活躍できる環境づくり等への支援により、経営基盤の強化が図られ、企業が社会の変化に対応して持続的な成長を果たし、世界に飛躍しています。加えて、創業・起業の促進により、台東区の特徴である多様な産業の集積が一層進んでいます。また、時代のニーズに的確に対応した、個性と魅力溢れる商店街が形成されています。そして、ものづくりをはじめとする区内産業の更なる振興が図られて、地域経済が活性化しています。

5 基本目標3

台東区は、名所や旧跡の数々を擁し、まちや日々の暮らしの中に、江戸の粋と人情、歴史と文化が息づいています。幾多の先人たちによって、今日まで築き上げられた、多彩で粋な文化は、区民の誇りであり、このまちを成長・発展させてきた力の源です。台東区は、文化の力を最大限に活かして、人々の心豊かな生活を実現し、まちの魅力と活力を向上させます。

また、古くから商工業の中心地の一つとして栄え発展してきた台東区に、今なお集積する多種多様な産業は、このまちの個性と魅力です。産業の振興は、まちに活力を生みだすとともに、区民生活の向上につながります。台東区は、企業の持続的な成長と、多種多様な産業の集積を一層向上させて区内産業の更なる振興を図ります。

さらに、豊富な地域資源、四季折々の行事などの多彩な魅力により、台東区には世界中から多くの人々が訪れています。観光は、地域の賑わいの創出や、地域経済の活性化に大きな役割を果たします。台東区は、世界に冠たる観光都市として、世界中の人々を惹きつけるとともに、区民との相互理解を促進させて、誰もが満足し、持続的に発展し続ける質の高い観光地を形成します。そして、観光の力を活かし、区民生活の更なる向上を図ります。

世界中から多様な人々が訪れる台東区では、長い歴史と伝統に裏打ちされた文化や産業が、新たな感性と出会うことで、新しい魅力が生まれ、まちの輝きが増しています。そして、その輝きがまちの繁栄を確固たるものとし、台東区は、文化と産業、そして観光の力を連動させて、その力を最大限に高め、輝かしい未来への創造につなげていくことで、「活力にあふれ多彩な魅力が輝くまち」を実現します。

6 施策の方向性（第7回審議会時点）

区内企業の経営基盤の強化を図るとともに、区内での創業・起業を促進していきます。また、時代のニーズに的確に対応した、個性と魅力溢れる商店街を形成します。

7 施策の方向性案

資料3-2 「施策の方向性案」 9ページ該当

観光分野

1 観光分野の課題

- ①観光消費額を上げるため、観光活動や消費活動を活発化させていく必要がある。
- ②国内旅行市場の縮小が見込まれており、観光客の再来訪を促す取り組みが必要となっている。
- ③様々な国や地域から観光客が訪れており、観光客の特性や嗜好を踏まえた誘客に取り組む必要がある。
- ④他自治体と連携して互いの魅力を発信し、観光客の誘致を進める取り組みが必要となっている。
- ⑤本区の観光振興をより強力的に推進するためには、観光関係団体をはじめ多様な事業者や区民などとの連携・協力体制を充実させる必要がある。
- ⑥外国人や高齢者、障害者など、誰もが快適に過ごすことができる受入環境の整備に取り組む必要がある。
- ⑦区民と観光客の相互理解を促進していく必要がある。
- ⑧交通事故の危険性を解消するため観光バス対策を推進するなど、区民と観光客がともに安心安全に過ごせる環境を整備する必要がある。

2 課題解決に向けた施策の方向性

- ①一日中滞在を楽しめる仕組みづくり
- ②多面的な観光魅力の創出と磨き上げ
- ③戦略的なプロモーションの展開
- ④誰もが安心して快適に観光できる環境整備
- ⑤区民と観光客との共生

3 審議会での主な意見

- ①周辺の区と連携し発展していくということも必要ではないか。
- ②上野・谷中・浅草など一定の所に人が集まるので、人の流れをどう分散させるかが大切。
- ③外国人観光客にとって歩けるまちというのは魅力的。
- ④産業の集積は観光的にも面白いので、その視点から新しい観光資源を作っていくのも良い。
- ⑤産業・観光・文化の連携は必要。
- ⑥観光は量から質の転換が必要。
- ⑦区民と観光客の相互理解が必要。
- ⑧観光に来た人を排除することなく温かく受け入れるホスピタリティを醸成し、文化への理解を深めることが、日本を好きになってもらうことに繋がる。
- ⑨人々が観光に望むものは、「旅先での人と人の触れ合い・交流」になっているのではないか。
- ⑩マナーの悪い外国人への対応は考える必要がある。
- ⑪外国人観光客については、日本、台東区の文化を好きになる人を作ることが大事で、そのためには、台東区民が自分たちの文化を好きになって大事にすることが大切。

4 観光分野の20年後の望ましい姿

まちに息づく多彩な観光資源の磨き上げや、新たな観光資源の創出等により、世界に冠たる観光都市として、世界中の人々を惹きつけています。また、観光客が安全・安心・快適に滞在し、回遊できる環境の整備や、区民のおもてなし意識の醸成、区民と観光客との文化や習慣等の相互理解が促進されています。そして、誰もが満足し、持続的に発展し続ける質の高い観光地が形成され、区民生活の一層の向上が図られています。

5 基本目標3

台東区は、名所や旧跡の数々を擁し、まちや日々の暮らしの中に、江戸の粋と人情、歴史と文化が息づいています。幾多の先人たちによって、今日まで築き上げられた、多彩で粋な文化は、区民の誇りであり、このまちを成長・発展させてきた力の源です。台東区は、文化の力を最大限に活かして、人々の心豊かな生活を実現し、まちの魅力と活力を向上させます。

また、古くから商工業の中心地の一つとして栄え発展してきた台東区に、今なお集積する多種多様な産業は、このまちの個性と魅力です。産業の振興は、まちに活力を生み出すとともに、区民生活の向上につながります。台東区は、企業の持続的な成長と、多種多様な産業の集積を一層向上させて区内産業の更なる振興を図ります。

さらに、豊富な地域資源、四季折々の行事などの多彩な魅力により、台東区には世界中から多くの人々が訪れています。観光は、地域の賑わいの創出や、地域経済の活性化に大きな役割を果たします。台東区は、世界に冠たる観光都市として、世界中の人々を惹きつけるとともに、区民との相互理解を促進させて、誰もが満足し、持続的に発展し続ける質の高い観光地を形成します。そして、観光の力を活かし、区民生活の更なる向上を図ります。

世界中から多様な人々が訪れる台東区では、長い歴史と伝統に裏打ちされた文化や産業が、新たな感性と出会うことで、新しい魅力が生まれ、まちの輝きが増しています。そして、その輝きがまちの繁栄を確固たるものとし、台東区は、文化と産業、そして観光の力を連動させて、その力を最大限に高め、輝かしい未来への創造につなげていくことで、「活力にあふれ多彩な魅力が輝くまち」を実現します。

6 施策の方向性（第7回審議会時点）

まちに息づく多彩な観光資源の磨き上げや、新たな観光資源を創出していきます。また、観光客が安全・安心・快適に滞在し、回遊できる環境を整備するとともに、区民のおもてなし意識の醸成や、区民と観光客との文化や習慣等の相互理解を促進していきます。

7 施策の方向性案

資料3-2 「施策の方向性案」 10ページ該当

まちづくり分野

1 まちづくり分野の課題

- ①商業・業務機能の強化や文化・観光資源の活用による拠点性の向上や、市街地の更新を図る必要がある。
- ②インフラ施設の計画的な維持・保全や無電柱化の整備、道路の利活用等、都市基盤の充実・有効活用が必要。
- ③文化や伝統、みどりなどの地域が持つ特性を活かした景観まちづくりの推進が必要。
- ④高齢者・外国人を含むすべての人々に配慮したユニバーサルデザインのまちづくりの推進が必要。
- ⑤子育て世帯や高齢者など多様なニーズに適応できるような良質な住宅ストックの形成が必要。
- ⑥区内に存在する空き家の適正管理や利活用のさらなる促進を図る必要がある。
- ⑦まちづくりには地域の参画が不可欠なことから、協働まちづくりやエリアマネジメントの支援強化が必要。
- ⑧木密地域の整備、狭あい道路の拡幅や建物の耐震化・不燃化を促進し、区全体での防災性向上が必要。

2 課題解決に向けた施策の方向性

- ①地域特性に応じた都市機能の誘導・配置
- ②都市基盤の充実・有効活用
- ③防災都市づくりの推進
- ④個性を活かした景観の形成
- ⑤ユニバーサルデザインのまちづくりの推進
- ⑥多様で質の高い住環境の整備促進
- ⑦官民協働によるまちづくりの推進

3 審議会での主な意見

- ①まちづくりには区民参加が重要 ②区内でも地域偏在があるので、区内における均等なまちづくりが必要 ③子育て世代には、交通の便が良いことや地形がフラットなことなどが魅力となる
- ④まちづくりの基本は安全安心だが、ニーズが多様化している今は、ユニバーサルデザインをどこまでやれるかが大事 ⑤空き家問題をどうしていくかの視点を入れることが必要
- ⑥無電柱化は必要であり、安全面と緑化が共存できるまちづくりがいい ⑦住む人も、来る人も「安全安心」がキーワードだと考える

4 まちづくり分野の20年後の望ましい姿

住む人、働く人、訪れる人など、多様な人々によるまちづくりが推進され、歴史、文化、産業や自然などの地域特性を活かした、活力と魅力あふれる個性豊かなまち並みが創出されています。また、全ての人々にやさしいまちづくりや、花とみどりに囲まれた環境の整備・保全により、誰もが快適で暮らしやすい生活を享受しています。そして、誰もが誇りや憧れを抱き、住みたい、働きたい、訪れたいと思える、持続可能な都市が形成されています。

5 基本目標4

台東区には、今なお歴史を感じる街並みや、緑・水辺といった自然など、数多くの地域資源が存在し、時代の流れとともに、それぞれの地域が独自の輝きをもって成長してきました。台東区は、こうした地域ごとの特色を活かして、個性豊かな街並みや、まちの活力を創出していきます。

また、台東区には、豊かな人情と温もり、支え合いを基調とする地域性が今日まで引き継がれ、災害や犯罪に強いまちを築くための土壌があります。台東区は、こうした強みを活かしながら、地震・水害をはじめとする災害や犯罪の危険から、区民や来街者の生命と財産を守り、まちの安全安心を確保していきます。

さらに、隅田川や上野の山といった自然は、人々に安らぎや癒しを与えます。こうした自然を未来に引き継ぐとともに、環境負荷の少ない社会を構築していくことは、現代に生きる私たちの使命であります。台東区は、地球環境に優しい社会への転換を一層進め、区内の自然を次世代へ継承し、誰もが住みよい、快適で潤いのある都市環境を創出していきます。

住む人、働く人、訪れる人にとって魅力のある持続可能なまちにするためには、長い歴史の中で育んできた地域の資源を活かして、個性豊かな街並みやまちの活力を創出するとともに、誰もが安全安心で快適に過ごすことができる環境を整えていくことが必要です。台東区は「住みたい」、「働きたい」、「訪れたい」と思えるまちづくりに取り組み、「誰もが誇りや憧れを抱く安全安心で快適なまち」を実現します。

6 施策の方向性（第7回審議会時点）

歴史、文化、産業や自然などの地域特性を活かすとともに、住む人、働く人、訪れる人など、多様な人々と協働してまちづくりを推進していきます。
加えて、全ての人々に優しいまちづくりを推進し、花と緑に囲まれた環境を整備していきます。

7 施策の方向性案

資料3-2 「施策の方向性案」 11ページ該当

防災防犯分野

1 防災防犯分野の課題

- ①自助、共助の取組への参画を推進し、防災に関する意識啓発が必要。
- ②地震や集中豪雨等への災害発生時に混乱しないよう、正確で迅速な情報提供が必要。
- ③発災後の初動対応力の更なる向上が必要。
- ④災害時の医療救護活動を迅速的確に行えるよう関係機関との連携が必要。
- ⑤避難所の周知、自力での避難が困難な方への対応が必要。
- ⑥多数の帰宅困難者の安全な帰宅の実現に向けた対策が必要。
- ⑦犯罪手口が巧妙、複雑化していて、防犯意識の向上と自主防犯力の強化が必要。

2 課題解決に向けた施策の方向性

- ①自助、共助による地域防犯力の向上
- ②公助による防災対策強化（地震・水害）
- ③避難者、帰宅困難者対策
- ④地域防犯活動の充実

3 審議会での主な意見

- ①災害時における減災対策だけでなく、復興復旧に対する対応も表現した方が良い。
- ②集中豪雨による水害対策が大切。
- ③大規模災害では、遠隔地との広域連携が大切。
- ④いかに被害を減らすかという“減災”に考え方をシフトしている自治体がある。
- ⑤神社等を活用する等、帰宅困難者向けの一時滞在施設を充実させることが必要。
- ⑥災害時の障害者対応は1人1人異なるので、より緻密な要援護者計画が必要となる。
- ⑦震災後4日～1週間のフェーズ2以降は、生活の復興がメインとなる。
- ⑧防犯カメラは防犯上役に立つが、管理が大変なので、そのケアも考えてもらいたい。

4 防災防犯分野の20年後の望ましい姿

自助・共助・公助の連携により、地域の防災力・減災力が向上し、災害への迅速かつ的確な対応や、しなやかにそしてすみやかに復興できる環境が整っています。また、防犯意識の高まりや、人々のつながりと支え合い等により、犯罪に強い都市が形成されています。そして、地震・水害をはじめとする災害や犯罪の危険から、区民や来街者の生命と財産が守られ、日々の暮らしの安全・安心が確保されています。

5 基本目標4

台東区には、今なお歴史を感じる街並みや、緑・水辺といった自然など、数多くの地域資源が存在し、時代の流れとともに、それぞれの地域が独自の輝きをもって成長してきました。台東区は、こうした地域ごとの特色を活かして、個性豊かな街並みや、まちの活力を創出していきます。

また、台東区には、豊かな人情と温もり、支え合いを基調とする地域性が今日まで引き継がれ、災害や犯罪に強いまちを築くための土壌があります。台東区は、こうした強みを活かしながら、地震・水害をはじめとする災害や犯罪の危険から、区民や来街者の生命と財産を守り、まちの安全安心を確保していきます。

さらに、隅田川や上野の山といった自然は、人々に安らぎや癒しを与えます。こうした自然を未来に引き継ぐとともに、環境負荷の少ない社会を構築していくことは、現代に生きる私たちの使命であります。台東区は、地球環境に優しい社会への転換を一層進め、区内の自然を次世代へ継承し、誰もが住みよい、快適で潤いのある都市環境を創出していきます。

住む人、働く人、訪れる人にとって魅力のある持続可能なまちにするためには、長い歴史の中で育んできた地域の資源を活かして、個性豊かな街並みやまちの活力を創出するとともに、誰もが安全安心で快適に過ごすことができる環境を整えていくことが必要です。台東区は「住みたい」、「働きたい」、「訪れたい」と思えるまちづくりに取り組み、「誰もが誇りや憧れを抱く安全安心で快適なまち」を実現します。

6 施策の方向性（第7回審議会時点）

自助・共助・公助の連携により、地域の防災力・減災力を向上させるとともに、災害に迅速かつ的確に対応できる体制や、しなやかにそしてすみやかに復興できる体制を整備していきます。

また、区民の防犯意識を高めるとともに、人々のつながりと支え合いを活かして、犯罪に強い都市を形成していきます。

7 施策の方向性案

資料3-2 「施策の方向性案」 12ページ該当

環境分野

1 環境分野の課題

- ①温室効果ガス削減率の目標の達成に向けて、大幅な削減が必要。
- ②家庭や事業所、区有施設における省エネ機器等の導入など、更なる省エネルギー化の推進が必要。
- ③区内の緑被率が23区の中で低く、ヒートアイランド現象の緩和の観点からも緑化の推進が必要。
- ④区民の自主的な環境行動や環境学習の意識啓発が必要。
- ⑤人口増加等の影響により区収集ごみ量が増加に転じる可能性があり、更なる働きかけが必要。
- ⑥区民や事業者の自主的な資源の分別等の推進が必要。

2 課題解決に向けた施策の方向性

- ①低炭素社会の推進
- ②花やみどりなど自然環境の創出と保全
- ③環境美化活動の充実
- ④ごみ減量の推進
- ⑤資源循環の促進

3 審議会での主な意見

- ①個人の生活ごみは減少しており、一定の成果をあげているので、事業系ごみの特に生ごみと紙への対策を行えば、ごみは大きく減る
- ②台東区には多くの観光客、来訪者がいるので、その人達にも環境の問題を意識してもらうことは非常に重要
- ③外国人によるごみ分別の問題があるので、対応が必要
- ④そもそもごみを出さないことが重要
- ⑤面積が狭いなか、みどりを創生するには、バックヤードをきれいにする施策が現実的
- ⑥緑被率を増やすのは難しいので、緑視率を上げるのが必要
- ⑦屋上緑化、壁面緑化を民間にどう推進させるかが課題
- ⑧ごみ問題については、区民の意識改革をすすめることが重要

4 環境分野の20年後の望ましい姿

区民・事業者・来街者が、環境問題に積極的に取り組むことで、低炭素社会や循環型社会等の形成が図られ、地球環境に優しい社会への転換が一層進んでいます。また、地域が一体となった花やみどりの創出、水辺環境の保全により、上野の山や隅田川をはじめとする豊かな自然が次世代へ継承されています。そして、誰もが住みよい、潤いのある快適な都市環境が形成されています。

5 基本目標4

台東区には、今なお歴史を感じる街並みや、緑・水辺といった自然など、数多くの地域資源が存在し、時代の流れとともに、それぞれの地域が独自の輝きをもって成長してきました。台東区は、こうした地域ごとの特色を活かして、個性豊かな街並みや、まちの活力を創出していきます。

また、台東区には、豊かな人情と温もり、支え合いを基調とする地域性が今日まで引き継がれ、災害や犯罪に強いまちを築くための土壌があります。台東区は、こうした強みを活かしながら、地震・水害をはじめとする災害や犯罪の危険から、区民や来街者の生命と財産を守り、まちの安全安心を確保していきます。

さらに、隅田川や上野の山といった自然は、人々に安らぎや癒しを与えます。こうした自然を未来に引き継ぐとともに、環境負荷の少ない社会を構築していくことは、現代に生きる私たちの使命であります。台東区は、地球環境に優しい社会への転換を一層進め、区内の自然を次世代へ継承し、誰もが住みよい、快適で潤いのある都市環境を創出していきます。

住む人、働く人、訪れる人にとって魅力のある持続可能なまちにするためには、長い歴史の中で育んできた地域の資源を活かして、個性豊かな街並みやまちの活力を創出するとともに、誰もが安全安心で快適に過ごすことができる環境を整えていく必要があります。台東区は「住みたい」、「働きたい」、「訪れたい」と思えるまちづくりに取り組み、「誰もが誇りや憧れを抱く安全安心で快適なまち」を実現します。

6 施策の方向性（第7回審議会時点）

区民・事業者・来街者と一体となって、環境問題に取り組み、低炭素社会や循環型社会等の形成を図っていきます。また、花やみどりの創出、水辺環境の保全に取り組み、豊かな自然を次世代に継承していきます。

7 施策の方向性案

資料3-2 「施策の方向性案」 13ページ該当

パートナーシップ・行政経営分野

1 パートナーシップ・行政経営分野の課題

- パートナーシップ分野
 - ①区民、活動団体等の多様な主体間による協働を進めるため、引き続き協働への理解・参加促進が必要。
 - ②人権感覚の醸成や男女平等の啓発を強化し、人権尊重と多様性豊かな地域社会の実現に向けた取組みが必要。
 - ③増加が見込まれる在住外国人が地域社会の一員として協力し、生活できる仕組みづくりの推進が必要。
 - ④姉妹友好都市をはじめとする全国の様々な都市との交流を進めていく必要がある。
- 行政経営分野
 - ⑤区民福祉の維持・向上のため、中長期的な視点に立った安定的な財政運営の継続が必要。
 - ⑥公共施設の維持・計画的な更新を進めるとともに、中長期的な視点から施設再編の検討も必要。
 - ⑦行政経営の強化のため、新公会計による財務書類等を活用していく必要がある。
 - ⑧行政評価等を活用したマネジメントサイクルの推進による効果的・効率的な事業執行を図る必要がある。
 - ⑨公正で適切な職務の執行を確保するため内部統制機能の導入及び充実に向けた取組の検討が必要。
 - ⑩情報通信技術を活用して、区民のさらなる利便性の向上を図る必要がある。
 - ⑪業務改善や職員の早期育成を進めるとともに、ワーク・ライフ・バランスの推進が必要。
 - ⑫大規模用地の活用により、行政課題の解決と、区民のニーズを踏まえた活用を図っていく必要がある。

2 課題解決に向けた施策の方向性

- パートナーシップ分野
 - ①協働の推進
 - ②誰もが互いに尊重しあえる社会の構築
 - ③多文化共生の推進
 - ④交流都市との共存共栄を図るための交流の推進
- 行政経営分野
 - ⑤健全で持続可能な財政運営の推進
 - ⑥公共施設等の維持・保全・適正化の推進
 - ⑦効率的な事業執行・公正で適切な職務遂行
 - ⑧区民サービスの向上に向けた情報通信技術利活用の推進
 - ⑨仕事と家庭の両立支援に向けた働きやすい環境づくりの推進
 - ⑩行政需要や区民ニーズに対応した大規模用地の活用推進

3 審議会での主な意見

- パートナーシップ分野
 - ①女性が活躍できる台東区であってほしい。
 - ②新しい住民と古くからいる住民が協力できる、「新」と「古」がうまく融合できるのが台東区の魅力。
 - ③在住外国人が地域を支える仕組みづくりが重要。
 - ④台東区は地域の連携が強いので、今後の高齢化への対応や担い手不足等の課題はあるものの、台東区の強みを活かす視点が必要。
- 行政経営分野
 - ⑤公共施設について、台東区は現状最適配置をする必要性はないので、このような議論にはなっていないと思うが、余裕がある今の内に手をつけておくの良いのではないか。
 - ⑥高齢と障害と子育てが一体となった施設（ほうらい）では良い効果が出ているので、大規模用地の活用はこういったケースも踏まえてもらいたい。

4 パートナーシップ分野の20年後の望ましい姿 ※行政経営分野は小委員会で議論していないため、20年後の望ましい姿はなし

（パートナーシップ分野）
 年齢、性別、国籍、障害の有無などにかかわらず、全ての人の人権が尊重され、いきいきと生活し、様々な場面で活躍できる地域社会が構築されています。
 また、支え合いを基調とする地域性が引き継がれ、多様な主体による協働が推進されることで、地域の課題解決が図られています。

5 第3章 多様な主体と連携した区政運営の推進

- 平和と多様性の尊重
 世界の恒久平和は人類共通の願いであり、平和は都市の繁栄と豊かさの礎となるものです。台東区は平和な社会を次の世代に確実に引き継いでいくために、恒久平和の実現に向けて取り組んでいきます。そして、年齢、性別、国籍、障害の有無などにかかわらず、すべての人々の人権が尊重され、いきいきと生活し、多様な人々が様々な場面で活躍できる地域社会を構築していきます。
- パートナーシップの促進
 支え合いを基調とする地域性を活かして、区民や町会のほか、NPOや企業など、多様な主体間の協働や、それらと行政とのパートナーシップを確立し、地域の活性化や課題解決に取り組んでいきます。
- 国内外の都市・地域との連携
 国や東京都をはじめ、他の自治体とも連携しながら、災害対策などの様々な課題に取り組んでいきます。また、将来にわたり、台東区が活力ある地域社会を維持し、更なる発展を遂げていくために、国内外の都市や地域との連携・交流を深め、互いの魅力を高め合いながら、共存・共栄を図っていきます。
- 持続可能な行財政運営
 将来を見通した総合的な計画に基づき、社会経済状況の変化や、行財政制度の変革を見据えながら、区政を展開していきます。また、柔軟な組織運営や先端技術の活用のほか、教育、福祉、産業、まちづくりといった各分野の取り組みの連携などにより、効果的・効率的で、持続可能な行財政運営を推進していきます。

6 施策の方向性（第7回審議会時点）

7 施策の方向性案

資料3-2 「施策の方向性案」 14ページ・15ページ該当